

# 【2019年6月 月間予定表 —醍醐校—】



## 6月の予定

1	土	休校日
2	日	
3	月	●実力テスト期間
4	火	
5	水	
6	木	
7	金	▼
8	土	『入試分析会』(柳井南校・醍醐校)
9	日	
10	月	●学習報告会開始
11	火	
12	水	
13	木	
14	金	
15	土	『定期テスト攻略講座』(春日丘中対象)
16	日	『定期テスト攻略講座』(春日丘中対象)
17	月	
18	火	
19	水	
20	木	
21	金	
22	土	『定期テスト攻略講座』(栗陵中対象)
23	日	『定期テスト攻略講座』(栗陵中対象)
24	月	
25	火	
26	水	
27	木	
28	金	
29	土	
30	日	

※諸事情により予定を一部変更する場合があります。

## 【4月度のMVP】

### ●中3 U・K くん

第1回V模試において  
5科の偏差値が**全校舎でNo.1!!**  
この調子でがんばれー!!!

### ●小4 K・O くん

『自宅学習用プリント』の消化数が  
**クラス1位!!**えらいぞー!!!

## 6月行事について

●入試分析会・・・2019年度中学・高校入試総括と2020年度入試展望をお伝えします。

## 【仁を知り、道を拓く】

保護者の皆様、いつもお世話になっております。

10連休は旅行にも行かず、ひっきり三昧だった山田です(笑)  
旅といえば、江戸時代を代表する俳人、松尾芭蕉。

松尾芭蕉の友人が、かけがえのないひとり息子を亡くしたときのこと。  
芭蕉は一通のお悔やみの手紙を出しました。

友人は、芭蕉からのその手紙をじっと眺め、深く深くうなずきながら  
「もつべきものは心の友だ。ああ、有難い」と涙したそうです。

いったい、松尾芭蕉は何を書いたのか？

実は、その手紙、全くの白紙で何も書かれていなかったのです。

ただ、手紙の最後に一句だけ、俳句が書かれていました。

友人は、その手紙をじっと眺めていました……。

芭蕉にしてみれば、友人の心中を察すれば、あまりの痛ましさに、なぐさめの言葉も書くことができなかったのです。

でも、その友を想う芭蕉の気持ちが、手紙にこもっていた。

「悲しいだろう、しかし私にはあなたを何となくさめていいのか言葉がみつからない……。」  
そんな芭蕉の気持ちが。

その気持ちを白紙の手紙に託し、万感の思いを込めて、最後の一句にしたためたのです。

「埋火(うずみび)も消ゆや涙の烹(に)ゆる音」

夫婦二人、火鉢に向かい合う。言葉もなく、帰らぬ子を想ってはともに涙をこぼす。  
涙が、火鉢の埋もれ火の上にポトリポトリと落ちて、涙の煮える音だけ聞こえてくる。  
そんな句です。

「あなたの悲しみが本当に分かる」

ともに涙すること、それが芭蕉の精一杯のなぐさめだったのでしょ。

「仁」という文字は、「人」が「二人」寄り添ってできています。

一人じゃない。寄り添って涙する、それが「仁」なんです。

さて、そんな芭蕉が「奥の細道」の旅にでたのは46歳の時です。

人生50年と言われた当時ですから、もう晩年です。

実際、芭蕉はその5年後の51歳で亡くなっています。

そんな晩年にも、芭蕉はいままで自分から、新しい自分になろうと、全てを捨て、旅にでたのです。

表現者として、新しい言葉を獲得しよう。

じつは私も来月で46歳になります。

私も負けじと、新しい道を追求していこうと思います。

芭蕉が、表現者としての道を追求したように。

私は教育者としての道を。

今日というエネルギーは、過去を手放させます。

新しい旅を始めるなら、今日からなんです！

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」by 松尾芭蕉

月日というのは、永遠に旅を続ける旅人のようなものであり、来ては去り、去っては来る年もまた、同じように旅人である。

なれる最高の自分になる。

人生とは、そこへ向けてひたすら進んでいくだけ。

果てなき道を、

どこまでも、どこまでも。

私たちもまた、永遠の旅人なのです。

塾長 山田 大介